

抄録(中林 誠)

歯科補綴物を製作するに辺り重要になってくるのが印象採得と咬合採得である。特に残存歯が少ない多数歯欠損や無歯顎における咬合採得は歯の咬頭による嵌合位が無い場合ため歯科医師が複数の基準や平均値などを参考に採得を行う事が多い。そこでよく用いられるのが咬合床であり、我々歯科技工士が最初に製作する事となる。

この咬合床の出来次第で歯科医師が咬合採得にかかるチェアタイムと今後の工程に差がでてくる事があり、咬合床の製作は重要な作業となる。

教養課程では多数歯欠損、または無歯顎の症例における模型のランドマークから得られる情報の分析と、平均値を用いて症例による仮想咬合平面の設定の仕方などの説明。

専門課程では適合の良い基礎床の製法、また口腔内での調整を減らすワックスリムの設置位置や高さなどを実習形式で行っていく。